

表6 設計条件確認一覧表-2

確認事項	確認理由	チェックポイント
⑬シーリング材と被着体の接着	シーリング材と被着体の組み合わせによっては接着しにくい材料がある。	被着体がつ素塗装, アルミの電着塗装, ステンレスクリア塗装, ポリカーボネイト, CFRC, VFRC, 鉛丹錆止め塗料, 溶融亜鉛メッキの場合, 同じ種類の被着体でもメーカー等により接着性が異なる場合があるので, 接着性確認のために簡易接着試験を行う。
⑭シーリング材の打ち継ぎ	異種シーリング材を打ち継ぐと, 組み合わせによっては接着不良やシーリング材の硬化不良などが生じる恐れがある。	・工場シール(先打ちシール)の有無を確認する。 ・シーリング材打ち継ぎ箇所の有無を確認する。 ・同種のシーリング材でもメーカーの違いで接着強さを確保できない場合がある。また, 変成シリコン系では同じ銘柄でも打ち継ぎ間隔が長くなると接着強さを確保できないことがあるので要注意。 ・打ち継ぐシーリング材の組み合わせ, 施工順序及び使用するプライマーが適切か否かを確認する。異種シーリング材の打ち継ぎは基本的に好ましくない。やむを得ずシーリング材を打ち継ぐ場合は事前に確認する。
⑮上向きシールの有無	水平面は垂直面よりも日射量・紫外線量が多いため, 上向きシールは壁等の垂直シールよりも早期に劣化する。 上向きシールは雨水が溜まりやすいため, 欠陥が生じると漏水に直結する可能性が高い。	・被着材のムーブメントを算定し, ムーブメントに見合った目地の幅・厚さが確保されているかを確認する。 ・ムーブメントが大き過ぎる場合は被着体の長さ変更を検討する。 ・水はけがよくなるよう水勾配を取る。
⑯外壁同面サッシの有無(面付けサッシ)	同面サッシはダキ納まりのようにサッシ周辺の躯体に仕上げの水切りを設ける等の止水対策を講じ難いため, サッシ枠の取り付け部に雨水が直接作用し漏水を生じやすい。	・同面サッシの有無を確認する。 ・外壁の構成, 構成材, 仕上げに適したサッシ枠型材になっているか否かを確認する。 ・外壁の構成, 構成材, 仕上げに適した防水納まりになっているか否かを確認する。 ・雨水・結露水の排水経路が適切か否かを確認する。 ・台風時の逆流防止対策にも要注意。 ・サッシの取り付け, サッシ躯体の防水処理, トロ詰めが確実に行える空寸寸法が確保されているか否かを確認する。
⑰押出成形セメント板の有無	押出成形セメント板は中空部があるためシーリング材の厚さが十分に確保できない。漏水経路が分かりづらく, また, 取り付けファスナーにより十分なシール形状を確保できないことがある。	・シールの目地幅・深さを確認する。 ・シール深さが不十分な場合は, 中空部を埋め, 深さの確保を検討する。 ・取り付けファスナーを確認する。
⑱構造スリットの有無	構造スリットの防水性はシーリング材に頼る納まりのため, 躯体目地部でシーリング工事を確実に行う必要がある。	・雨掛かり部に構造スリットがあるかを構造図で確認する。 ・構造スリットの位置が意匠的に反映されているかを確認する。 ・構造スリットのシーリング目地の幅・厚さが適切か確認する。 ・構造スリットはワーキングジョイントであるため, 2面接着になっているかを確認する。
⑲ガラス回り	・紫外線の影響を受け, 風圧・地震によるムーブメントがある。 ・サッシの形状によって目地の納まりが複雑であり, 事故が発生しやすい。 ・網入りガラスの場合, 錆びるとガラスが割れる原因となる。	・ガラスの面クリアランス・エッジクリアランス・かかり代の寸法, バックアップ材の納まり位置, 仕上げ方法に注意する。 ・ガラス回り目地は狭いので, 清掃やプライマー塗布は専用器具などを用いる。 ・外側下枠部のシーリング材仕上げ面は傾斜をつけ, 紫外線の照射を防止し, かつ雨水の流れをよくする。 ・網入ガラスの場合, 排水経路を明らかにする。
⑳点支持構法	・紫外線の影響を受け, 風圧荷重や層間変位のムーブメントを受けやすい。 ・ガラス間目地のため1次シールのみである。	・ムーブメントに対応できる目地形状の確保。 ・ガラス固定方法の確認。 ・合わせガラスの場合, 清掃溶剤・プライマー・シーリング材により中間膜に変色・はく離・膨潤などが発生するので事前確認を行う。
㉑サッシ回り	・カーテンウォールの場合を除きムーブメントが小さい。 ・表面仕上げ材を施したものとタイル・石張りのものが多く, 異種の被着体にシーリング材が接着することになる。 ・コンクリートにジャンカ・欠け・ひび割れが生じたり, タイル面とタイル目地の段差や目地際の凹凸などがあり, 防水上好ましくないものがある。	・2面接着より3面接着の方が確実な防水を行える場合が多い。 ・仕上げ材を施す場合は, コンクリート面に直接シーリング材を接着させる。 ・比較的軽微なジャンカ・欠けなどの欠陥は樹脂モルタルなどで補修せずにシーリング材を充填した方がよいが, 大きな欠けや, 突起物やレイタンス・木屑などの付着物は補修またはサンダーなどで除去する。
㉒ALCパネル	・取り付け方法によっては比較的大きな層間変位が発生する。 ・シーリング材の上に表面仕上材を施すのが一般的である。 ・吸水率が大きく被着面の表面強度が小さい。	・躯体及び建具との取り合い目地は耐久性区分上位のシーリング材を選定する。 ・出入隅及び鉄骨・柱・エキスパンションなどの接合部はダブルシールジョイントとするのが望ましい。 ・降雨後の施工は乾燥に留意する。 ・パネル表面が粗面・ぜい弱であり, 切断屑などが付着している場合があるので清掃及びプライマー塗布に留意する。

引用文献:『建築用シーリング材ハンドブック(2013年版)』日本シーリング工業会 p.56~60より抜粋

別表 地震の頻度と層間変位の目安

地震の頻度	ときどき起る	ときたま起ることがある	極めてまれに起ることがある
目安として与えた一般的層間変位	1 / 300	1 / 200	1 / 100
外壁カーテンウォールが保持すべき性能	健全で補修せず再使用できる程度	外壁では, 雨仕舞の補修を要する程度	仕上げ材に破損を生じるが, 形を保ち脱落は生じない程度